

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2015年11月1日 146号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

中田所長、大和田氏、吉本氏が帰国報告



パンタナール開発プロジェクトの報告と展望を語る中田実レダ基地所長（10月11日、定例集会にて、大山街道ふるさと館）



レダ基地での活動を報告する大和田氏

十月十一日、大山街道ふるさと館において行われた、当会の定例集会で、今月レダ基地から帰国した中田所長、大和田氏、吉本氏がそれぞれ活動報告をしました。中田所長は「パラグアイ人も行かないような、『見捨てられた地』に福地を建設し、地球環境問題と世界人類の食糧問題に解決策を提示する理念と目標が、この十六年の地道な活動を通して実体化してきました。開拓の初期には私たちの活動を理解できなかつた人々も、今日、私たちを見る目が百八十度変わりました。特にパラグアイに理想郷の実現を夢見て入植した日系やメノー教団の人々は、レダにおける活動の真価をよく分かってくれるようですね」と語りました。そして日系人で企画作成の専門家の協力によって作られた「レダ総合開発計画(試案)」を紹介しました。これはプレゼンテーション資料として優れた体裁を備えていて、プロジェクト推進のための教材として活用できるものです。さらに内外の智恵を結集することで、私たちの目指す福地実現理想がいつそう具現化し、多くの人々と共有できるようになるでしょう。所長は「日本は、優しさ、繊細な感性、勤勉、正直、創意、奉仕の精神など、素晴らしい資質を備えています。難問に苦しむ世界を救うことができる国です。逆に日本が破綻したら、世界人類は救われないでしょう。」「皆さん、夢を持つてください。レダはこれからです。限られた人生を、最後の一秒まで一緒にがんばりましょう」と熱い心を語りました。

大和田氏は、豚ランドの老朽車両が過酷な状態で走っていることを取り上げ、車両の為の支援を訴えました。また吉本氏は滞在中に撮影してきた多くの写真を用い、最新の状況を報告しました。

人生最後の一秒まで一緒に頑張ろう！



¡Viva Leda!

授乳するユーゲン君は、カビバラのパパ。



パクーの養殖池に石灰を撒いて消毒する。



パクーをたくさん釣った北中氏（右）。



養殖池でパクーの追い込み作業を手伝う



大物釣りに挑戦する吉本氏。



あなたといつまでもいたいワン。



滝川君が釣った、念願の初ドラド。



豚ランドは可愛い仔豚がいっぱい。



仲睦まじい大和田夫妻。（レダ基地大食堂）



パラグアイ川で釣ったパクーを手に。

★大和田法生（のりお） 氏にインタビューしました。

Q レダでは何を担当していますか？

A ①レダで働く労働者と日本人メンバーに人数分の肉（一人一食一〇〇g×三食分）を供給、米やパスタも一人一食一〇〇g×三食分供給。②炊事、掃除担当の現地の女性労働者を監督、必要な指示を与える。③夕方、食塩、醤油、食用油、乾物や台所用品等食当の要望に応じて提供。④施設の解錠、施錠、及び朝晩のゴキブリ退治。⑤労働者が使用する際の工具類の貸し出し、返却のチェック。⑥来客用のベッドメイキング。レダで最も苦心したことは何ですか？

日本滞在中に、どんなことをしたいですか？
A 時間にしばられない環境で、いかに能率良く行えるか、そのためには、プラスとなる材料を入手すること。

日本の支援者の方々に一言何でもどうぞ。

A 日頃の関心と応援、ご支援に感謝すると共にこれからもより一層関心を寄せて頂き、レダで歩むメンバーと一緒に一体化していけたらと思います。



★シロキツツキ

白を基調としたキツツキは、パンタナールに来て初めて見た。庭先にもしばしばやつて来て、アセロラの完熟果を啄ばんやりする。キツツキらしく垂直の幹にも止まることができる。他のキツツキのように、ドラミング調で木をつつくのは、まだ見たことがない。

赤や黒を基調としたキツツキは、人家から離れたところでドラミングをしているのが聞こえる。彼らが庭先に来ることはないが、人間が危険でないと知れば少しづつ接近して来るかもしれない。野生の獣や鳥は、一度でも驚かすと、信頼の回復には長い年月を要するだろう。

野鳥が人家の近くにやつて来るのは、だ（タカ、トキ）②食物の誘引力が強いえられる。いずれも私の仮説である。

①人間が大して危険でないことを学んだ



パンタナール体験者インタビュー（第1回）

養殖分野で貢献したい！



奥迫孝顕 第13回国際協力青年奉仕隊員 鮮文大学校水産生命医学科 3年

とて、レダしかないと確信しました。

Q. レダに行って、一番印象的だったことは何ですか？

A. 自分の持っている知識や経験を人々のために活かすことができればと、常日頃から思っていました。これが天が私に与えたその機会であると感じたからです。

Q. レダで、心に残る出会いがありましたか？

A. アクアポニクスという養殖方法に出会えたこと。

あと、もうひとつは、理想の福地、世界平和地球村をゼロから建設するという、とんでもなく面白そうなビジョンがあったことです。

Q. レダに行って、意外に思ったことはありますか？

A. 専門知識や技術を何にも持っていない素人集団の先生方が、立派な建物を建て、パクーを完全養殖させていことにかなり驚きました。そして、養殖分野では、絶対に先生方に負けたくないと思いました。その当時、1年の自分には、養殖分野でレダに行っても、貢献できることが何もないことに、かなりショックを受けたけど、おかげで生半可な知識や技術じや必要とされないことを思い知ることができました。

Q. レダから日本に帰って、思ったことは何ですか？

A. 自分は何を学び、養殖の中でもどんな専門分野の道に行くのか？を必死に考え悶え続けながら、あと少しで、自分の専門分野が見えてきそうなところです。



ある日、三羽のシロキツツキが、軒下のスズメバチの巣を襲撃した。巣はサッカーボール大、スズメバチは子育ての真っ最中だった。ハチの巣は風雨には耐えるものの、鳥のくちばしにかかれば簡単に壊れてしまう。シロキツツキたちは、スズメバチの大好きな幼虫を次から次へとほじり出して食べ。怒ったスズメバチたちが逆襲するが、シロ

自然界には天敵というものがある。人間たちが恐れるスズメバチだが、その天敵がちゃんといたのだ。ところで人間の天敵は何なのだろう。ある長老は「自分自身だ」と答えた。
(キツツキ目 キツツキ科 シロキツツキ) (小田記)

(コウカンチヨウ、カラカラ) ③気が強い（タ
イランチヨウ、タゲリ）④人家の近くがより安
全だと知っている（スズメ、ツバメ）⑤その他
(怪我、病気、ほかの場合)
シロキツツキは、③気が強い部類のようだ。

シロキツツキたちは全く平気な様子。遠慮なく巣を壊しては、ハチの子をむさぼり続ける。当地にはスズメバチ、ミツバチ、ほか様々なハチ類が棲んでいるが、先住民ですら毒蛇やアリと並んで最も恐れるのがハチの巣である。藪や茂みの中でうつかり触れでもしたら、悲惨な目にあう。私はこのシロキツツキたちの予期せぬ行動を唖然として眺めていた。とうとうスズメバチの巣は全壊し、その破片だけが無残に地上に散らばつているだけとなつた。シロキツツキたちは去つて行つた。スズメバチたちは悔しそうに巣の残骸の周りを飛んでいたが、やがてどこかに行つてしまつた。



熱心に聴き入る参加者たち（10月11日）



八木雄二先生

伝うには 全身全靈をもつて生
命總体の智恵を学ぶことが必要。
人間は生命をいただいて生きて
いるが、生命そのものに代価を
払うことは考えもしない。生命
をいただくことに涙するほどの大
感謝の心を持つて、食べ物をか
み締め、そして自然に恩返しを
すべきである。 (小田記)

① 氏名・フリガナ ② 年齢 ③ 性別 ④ 住所 ⑤ 電話番号
⑥ メールアドレス ⑦ 紹介者を明記の上、
FAX: ○四四一八二九二一〇、または
メール: office@asd-nsa.com へお願いします。
申込〆切: 十一月十八日(水)

A photograph of a modern residential complex. In the foreground, there is a landscaped area with a clock tower on the right, featuring a large circular clock face and smaller text below. The background shows several multi-story buildings with distinct colors: a pink tower on the left, a yellow tower in the center, and a white tower on the right. The buildings are surrounded by bare trees and some greenery. The sky is clear and blue.

全場となる オリンピック記念青少年総合センター

しました。講師は中世基督教哲学者の八木雄二先生。テーマは「地球上に自然を返すために」自然環境に感謝の心で接するボランティアについて」。ご自身が理事長を務める「NPO法人東京港グリーンボランティア」による「野鳥公園」の活動などの実体験に基き、自然の営みと人間の関わりについて、極めて根源的な内容を、フルランクに、かつ明快な論理で説明されました。参加者は約五十名。講義の後は質疑応答、全員での記念撮影、著書の紹介、サイン会等があり、午後四時過ぎ、大きな拍手の中に閉会しました。

聴講メモ：人間が自然界に手を出すと必ず自然を破壊するというヨーロッパ的な考え方は、正しいとは言えない。自然には、人間の手で手伝えることがある。それは、人間の生活圏から排

第九回パンタナール一日特別研修会ご案内

第九回パンタナール一日特別研修会ご案内

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

メールアドレスが変わっております！

(新) E-メール: office@asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円／月

♦ 特別会員一口 1 万円／月

♦法人会員一口1万円／月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと一緒に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

◆入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。
また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.docx>